

<今日の説教のポイント ルカによる福音書 24 章 36～49 節 >

1 (36-43) 復活の主とは何なのか? どう理解すればいいのか?

ギリシアの哲学者ソクラテスは、死んだら魂が肉体の牢屋から解き放たれるのだから死を恐れる必要はないと言いました（霊魂不滅）。また初期キリスト者の中には、「キリストは神だから死なない。だから、この時もこのような姿で神様が現れられたのだ」と言いました（仮現説）。しかし、復活の主は、そういうものではないことを力を込めて示されたのです。なぜでしょうか?

イエス様は弟子たちに「私の手や足を見なさい」と言われました（39-40）。ヨハネ福音書には、それはイエス様が十字架の上で釘を打たれた手であったことが報告されています（20:25, 27）。ただ死んだ人の復活が問題とされているだけなのではないのです。生きていた時に私たちの罪を贖うために苦しみ、死んで下さった方が復活されたということが大事なのです。その点で霊魂不滅や仮現説とは違うのです。私たちはイエス様の御苦しみによって生きることができるのです。

パウロは、「私たちは、十字架につけられたキリストを宣べ伝えています」と言って、このことがどれだけ私たちに生きる力を与えてくれるものであるかを語っています（I コリント 1:18-25）。これを理解しない信仰は、他の人のために苦しみそのために十字架を担うといったことは出て来ない、自分のための信仰で終わる可能性があります。しかし、自分のことだけ考える生き方では、結局、本当の満足は得られません。私たちと同じ人となり、私たちのために苦しみ死んで下さり、そして前と同じ存在として復活された主イエス・キリストと出会って初めて、私たちは苦しみに満ちていても「これでいいのだ」と思える人生を歩めるようになるのです。

2 (44-46) 主の復活は私たちが生きていい根拠。よって宣べ伝える

これだけ大事だからこそ、エマオの出来事に続き再び、復活の主は「聖書が救い主（メシア）の死と復活を語っている」と教えられ、それに続いて、「この福音を世界中の人々に宣べ伝えなさい」と弟子たちに命じられたのです。弟子たちは神様によってこのことがしっかり理解できるようにされた後、この使命を果たしていったのです。この恵みの福音を宣べ伝えることが私たちにも託されているのです!